

## 2024 年度ヴェネツィア カ・フォスカリ大学短期研修報告書

看護学部 3 回生

### (1) 活動概要

私たちは 2024 年 9 月 16 日～24 日までの約 1 週間、ヴェネツィア カ・フォスカリ大学短期研修に参加した。イタリアでは、日本とは異なる文化、習慣、歴史を体験し学ぶことができた。研修を通して、物事に対する視野が広がったと感じる。

最初の 2 日間は大学の日本語学科の学生にプレゼンの実施や授業の見学・参加をさせていただいた。プレゼン内容は導入としてお月見についての説明と日本人にとって月が様々な形で生活の中に組み込まれていることを説明した。また各授業で「お月見団子、お箏、俳句」についてのプレゼンを 4 人で協力して行い、実際に俳句を作ったり、折り紙を用いてお月見団子を作ったり、事前に撮影したお箏の演奏を聴いてもらうなどして現地の学生と交流をした。授業の見学では、ひらがな・カタカナ・漢字・文法を学んでいるところに参加させていただいた。残りの期間は自分たちで計画した場所の観光をした。ガラスの生産地として有名なムラーノ島とカラフルな家が立ち並び、レース職人の技を直接見られるブラーノ島に訪れた。最終日には日本語学科の学生 10 人にヴェネツィア本島内の観光地を案内してもらい、一緒に晩ご飯も食べた。歴史的建築物に訪れた際には、日本語学科の学生が日本語のカンペを用意して説明してくれたり、イタリア語で書かれた解説を読んで日本語で私たちに説明してくれたり、ただ建物や絵画を見て回るだけではなく歴史や絵画が表す情景を学ぶことができたと共に学生の温かさに触れた。

### (2) 研修での学び・気づき

まずグループ目標としていた「日本の文化についてのプレゼンテーションとコミュニケーションを通して、海外の方々と自分たちの文化の捉え方の違いを知る」について述べていく。プレゼンテーションを通して、現地の学生が日本についてとても詳しいことが分かった。日本に行ったことがあるという学生も多く、プレゼンテーションの中でアニメについての話が出た時には大きな反応を示していた。ある授業では、俳句を作る際、日本では作った俳句と共に言葉に含まれる独自の意味も説明することが多いが、イタリアの学生が作った俳句の中には「愛してる」「うるさい」「驚いた」などストレートに感情を表現しているところに主張の方法の違いがあることに気づいた。

次に私個人の目標としていた「イタリアの建築物・食の文化と歴史を学び、日本との違いを知る。日本のアニメ文化が海外の方々が熱狂的になる理由、背景を知る。」の成果について述べていく。建築物・食の文化と歴史についてはサン・マルコ寺院、ドゥカーレ宮殿を見学した際に、建築物内の壁にはラテン文字が示されており、現地の学生は「ラテン語が習ったけど読むのが難しい」と言っていた。日本の歴史的な建築物や書物も当時の日本語で記されているため読めないことがほとんどであるが、時代と共に使用される言語が

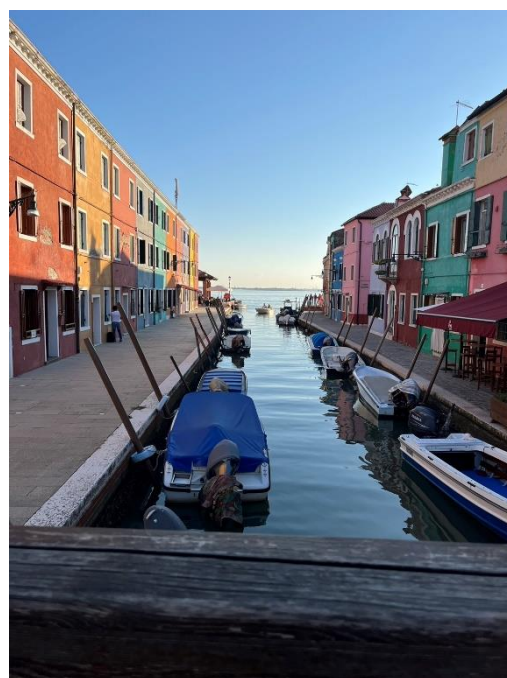
変化している点については共通していることが分かった。しかしイタリアの学生は公用語のイタリア語と英語を流暢に話し、さらにラテン語を学んでいることに驚いた。食文化については、ヴェネツィアに到着した日のお昼間から街中でオレンジ色の飲み物を飲んでいて人を大勢見かけた。その正体はスプリッツというお酒であり、スパークリングワインとアペロールを炭酸水で割り、オレンジスライスを入れて作るのだ。夕食でレストランに訪れた際には、ウェイターの方に「スプリッツはいらないの？」と聞かれることもあり、日本人にとっての「とりあえず生！」のような存在であることが予想される。ヴェネツィアでは日中からスプリッツを飲んでいる方が多く、現地の学生は「酒飲みが多いんだ。あんまり良くないよね」と笑いながら言っていた。しかし、高知県もひろめ市場を始めとしてお昼からお酒を飲んでいる人が多いのでこの点についても共通している習慣があることが分かった。日本のアニメ文化については、初日に日本語を教えている日本人の先生が「彼らは小さい頃からテレビで放送されている日本のアニメを普通に見ていた。大きくなってから自分たちが見ていたのは日本のアニメだったと知る人がいるくらい当たり前ように見えていたようだ。日本アニメのTシャツを着た人が結構いるから探してみてね。」と仰っていた。また最終日に日本語学科の皆さんと観光している時に、なぜ日本のアニメをよく知っているのか聞いてみた。先生が仰っていたこと背景の一つとしてあったが、加えて「日本語は本当に美しい」という声を聴いた。この発言をした彼は『夏目友人帳』というアニメが大好きだそうで、その中に出てくる言葉が美しいと熱弁してくれた。またジブリ映画について、スタジオジブリのどの監督のどの映画のどのセリフが好きかなど、日本の友達同士でもあまり話さないような細かな内容まで話し合った。私自身も日本語の言葉に含まれる意味などに魅力を感じていたが、海外の方も日本語に対する美しさを感じていることに驚いた。またプレゼンの時にも「月が綺麗ですね」の言葉の裏には「あなたのことが好きです」という意味が含まれていることを知っている方が多くいた。以上より、海外の方が日本アニメをよく知っている・興味がある背景には幼少期から日本アニメに触れていたことや日本語に魅力を感じているという理由があることが分かった。現在、インターネットを通じて日本アニメを全世界で見ることができ、より見る人が増えていることは確かである。アニメという入口から日本の素晴らしさを知ってもらいたいと感じると共に、自分もまだ自国について知らないことが多すぎると感じた。

### (3) その他

目標以外の成果として、トイレについて日本とイタリアの違いを知った。公共の施設や飲食店のトイレには便座が無かったのである。便座が無いのは盗難・損壊防止のためであるそうで、便座をも盗まれる可能性があるという危険性と同時に、日本の安全性の高さと危機感の小ささを感じた。

現在研修を終え、未だに連絡を取り合っているイタリアの学生もあり、いつか私たちが日本を案内できるような時間を過ごせることを願う。少しでも言葉の壁をなくすためにも

英語の勉強を頑張ろうと思った。約1週間の短い研修であったが、多くの感動と学びを得ることが出来、今後の人生においてかけがえのない時間になったと感じた。









## タイトル：2024 年度ヴェネツィア カ・フォスカリ大学短期研修報告書

看護学部・3 回生

報告書の内容：

### (1)活動概要

9 月 17 日

ヴェネツィアマルコポーロ空港に到着

空港にて昼食

宿泊先に荷物を置き、カ・フォスカリ大学にてオリエンテーション

主に現地の先生方による大学の歴史や生徒の人数、日本語を学ぶ生徒の特徴、授業内容について

レストランにて夕食

9 月 18 日・19 日

カ・フォスカリ大学にて授業参加と日本に関するプレゼンテーション発表

文法の授業では、読み書きを一緒に参加

自由会話では、グループに分かれ日本語にて自由に会話

9 月 20 日

研修先 サンマルコ広場

歴史的建造物の見学、現地の学生との交流、特産品の購入、地元の品を使った自炊

9 月 21 日

研修先 カ・フォスカリ大学

キャンパスツアー

主に現地の学生によるイタリアやカ・フォスカリ大学の歴史、建物に込められた意味などの説明、ヴェネツィア市内の散策

9 月 22 日

研修先 サンマルコ広場、サンマルコ寺院、デュカーレ宮殿、リアルト橋

歴史的建造物の見学、現地の学生との交流

### (2)研修での学び・気づき

9 月 18 日・19 日の二日間の授業参加とプレゼンテーション発表を通して、授業形式や生徒の授業を受ける姿勢が日本とは異なると感じた。イタリアでは、履修登録という形式がなくそれぞれの生徒が受けたいと思う授業に自主的に参加していた。自分の興味がある分野、内容についての授業を自分で選択しているからか、生徒一人一人真剣に授業に臨む姿勢が強く読み取れた。また、声に出して読んだり書いたりする個人で取り組む内容に加え、ペアワークやグループワークなどといった活動が多い。反対に日本ではそういった活動はなく先生が授業の最初から最後まで話続ける一方通行な授業になることが多いように感じる。それで起きることとして生徒のやる気の喪失や眠気につながっていると考える。他にも先

生からの問いかけに対して自主的に手を挙げて答える、あるいは当てられたときに自分の意見をしっかり伝えることが出来る人が多いと思った。私自身も今までの授業を振り返ると自分の意見をみんなの前で伝えることに緊張したり恥ずかしい、間違っていたりしたらどうしようというマイナスの感情から発言が少なかったように思う。しかし、イタリアでの授業の様子を見て、大勢の前で自分の意見を伝えることが出来るのは社会に出てからもすごく必要となることで大学生のうちに練習をする必要があると実感した。まずは、ペアワークやグループワークで自分の意見を積極的に発言していくことから心がけていきたいと思った。プレゼンテーション発表では、はきはきと大きな声で話すことを心がけ、言語が異なる異国でどうしたら伝わるかを考えながら行うことを目標としていた。具体的には、聞き手の日本語の理解度に合わせて話すスピードやイントネーション、ジェスチャーなどを意識した。また、どうしたら興味を持って話を聞いてもらえるのか、一日目の反応を見て二日目の工夫につなげたりした。私たちが思っていた以上に日本のアニメや漫画は現地の人にとっては身近なもので私たちよりも詳しく知っているなと感じたタイミングが多々あった。自分の知っている内容に関する話は退屈につながると考えられるため少なくする、省略するなどし、反対に質問があったことに関する内容は次の日のプレゼンテーションに追加するなどの工夫をした。その時の状況に応じて臨機応変に対応することの必要性に気付くと共に対応するためには事前の準備や予想を立てておくことが大切だと考えた。看護に置き換えても同じことが言え、患者さんの疾患や経過、その時の状況から今後の可能性を広げ対策する、あるいは対応策を考えておくことが重要である。

1 週間、外国で過ごして一番驚いたのが人と人との距離感である。同性だけでなく異性同士の仲もすごく良い。日本に比べスキニップもすごく多い。“男女差別”という言葉が頻繁に聞くようになったり“セクハラ”の判断基準が大幅に下がったりといった世の中になってきている中で性別関係なく人と人とのつながりが大切であることをこの研修旅行を通して改めて実感した。

イタリアでの宿泊中に一日だけ他の方のフロアを共有することになった。事前に聞いていた日とは別の日にその方が宿泊に来て突然のことですごく驚いたし初めての体験で少し恐怖もあり混乱した。しかし、外国の民泊では性別を問わず色々な人とフロアを共有するのが基本であることを初めて知り自分の不知の自覚をするとともに良い経験をさせてもらったと思っている。言葉も通じず初めは困惑したけど、それは私たちだけでなく相手の人も同じような感情になっていたかもしれない。混乱している時こそ一度深呼吸して冷静になり、相手の立場に立って考えることが大切だと思った。これから予期せぬことが起きた時に冷静さを取り戻せるように自分なりの対処方法を探しておこうと思った。これは、看護の実習や今後生きていく上で重要なことだと考えた。

私にとってこの 1 週間はすごくあっという間に過ぎすごく貴重な体験だった。最終日、カ・フォスカリ大学の学生に現地を案内してもらったが、日本語でのコミュニケーションが難しく英語を使う場面が多かった。しかし、私は英語が苦手で片言な言葉しか話せず、もう



少し話せたら良かったのにと強く後悔した。そのため、次外国に行く機会があればもっと英語を勉強し深いコミュニケーションが取れるようになりたいと思った。

### (3)その他

1週間、本当にお世話になりました。先生方や大学など様々な方々のご協力により一生心に残るすごく貴重な体験をさせていただいたと実感しております。ありがとうございます。今回の研修で学んだことは今後活かしていきたいと思います。

### (4)研修先の写真





## 2024 年度ヴェネツィア・カ・フoscカリ大学短期研修報告書

文化学部 2 回生

### ①活動概要

9 月 16 日：日本からフィンランド経由でイタリアのベネチアへ移動

9 月 17 日：ベネチアに到着、大学でのオリエンテーション

9 月 18 日、9 月 19 日：授業参加と授業見学

9 月 20 日：サンマルコ広場で歴史的建造物の見学、現地の学生との交流、特産品の購入、地元のものを使った自炊

9 月 21 日：大学のキャンパスツアーに参加、ムラーノとブラーノに訪れ、サン・ドナート博物館の見学、散策

9 月 22 日：現地の学生とともにサンマルコ広場、サンマルコ寺院、デュカーレ宮殿、リアルト橋といった歴史的建造物の見学、交流

9 月 23 日：ベネチアから日本へ帰国

### ②研修での学び・気づき

研修では様々な場所に訪れるだけでなく、カ・フoscカリ大学で実際にプレゼンテーションを行い、現地の大学生と交流することでたくさんの学び、気づきを得ることができた。この研修報告書では大学内と大学外の経験という 2 つの面から学びと気づきについて述べていく。

まず、大学内でプレゼンテーションをしたときの反応に気づきがあった。私は俳句についてのプレゼンテーションを行い、実際に簡単に俳句を作ってもらおうというアクティビティを行ったのだが、日本人と同じ見方や考え方をすることが多々あった。留学に行く前、イタリアという異国の地では日本と全く違う考え方をするという認識であったため、俳句に対してはよさがうまく伝わらなかったり、作るのにも一苦勞すると考えていた。しかし、実際には俳句というものについてよく知っていたし、例で出した俳句に対して「私もこの俳句と似たようなことを感じた事がある」という人もいて、異文化であっても共感することができるということに驚いた。また、俳句作りの際にはテーマを細かく設定しなかった

のだが、恋人への愛を表現したり、日常生活での驚いたこと、嫌なこと、うれしかったことを行動や比喻でうまく表現しており、その表現の仕方やテーマの選び方に関して、私たちのような日本人よりも、「こうしないといけない、上手くつくらないといけない」という固定観念もないため、意外性がありとても面白い俳句が多かった。この気づきからの学びとして外国に住んで日本と違う文化であったとしても感じ方を共有できたり、受け入れることはできるということである。イタリアには月を見る文化がないことが分かったが、だからといって月をきれいと感じる日本人の感じ方を否定しないし、たしかにきれいだなというように受け入れているところが見受けられた。私はイタリア人だから、異文化だからといって「わかるわけない」と決めつけていたことがあったので言葉や文化の壁があってもわかりあえるということに気づき、その今までの考え方を反省した。また、日本語学科ということもあり、日本の文化に対しての興味関心が強い様子だった。私たちは日本語でプレゼンテーションを行ったため、現地の学生にとって難しい日本語や聞き取れない言葉があったはずだが、一生懸命に聞き、質問もたくさんしてくれた。私は何か特定の文化に対して強い関心を抱いたことがなかったので、これほど日本の文化に興味を持ってくれることにうれしく感じたし、私ももっと自国の文化に対して理解やその魅力についての知識を深めていこうと思った。日本に対しての熱量は私たちのプレゼンテーションの時間だけでなく、日本語の授業を見学した時にも感じられた。授業形式は日本で行う英語の授業のようで、大半のクラスはひらがな、カタカナを勉強していた。見学の際は、実際に学生の隣や近くに座って、問題を確認したり、質問に答えさせてもらった。どの授業の見学でも現地の学生は積極的に日本語で話しかけてくれ、どんどん日本語を使って学ぼうという姿勢が強かった。また、文法的な質問だけでなく私自身に「どんな勉強をしているのか」「イタリアにはいつまでいるのか」というような「会話」をしようとしてくれる人もいた。この見学の時に感じた気づきとして、外国人に日本語を教えることの難しさが挙げられる。私は国語教師を目指していて、普段から教職の授業を受け、個別指導の塾講師アルバイトをしていたため、日本語や日本に関することを教えることはできる方だと考えていた。しかし、教えるための言葉が日本語ではない（授業では主にイタリア語、英語が中心）、擬音や抽象的な例（この言葉はきっちりした場で使う、この表現は柔らかい印象を与える）がうまく伝わらないという点から想像通りにはいかなかった。特に、基礎的なひらがなや簡単な会話文を教える授業では、母音のミス（「てんいん」を「てんひん」と発音するなど）や「は」を「わ」と発音するときとしないときの違いを多くの学生が苦戦しており、それをどう指摘して分かりやすく教えるかが分からなかった。私自身が日本語を話せて、文法も理解していても、それらを伝えるための道具（今回だと英語）をうまく活用できないと外国人に日本語を教えるということは難しいということを学んだ。また、もっとわかりやすく伝えるには英語だけではなくて、生徒にとっての母語も習得し、同じ表現や違いを説明してあげることが大切だと感じた。国語教師を目指すうえで、外国人に日本語を教える機会は少ないように感じるが、抽象的な表現を避け、具体的に簡潔に説明す

るというやり方や、何回も声に出させて定着させるといったやり方を教育方法の1つとして学べたことはとても大きなことであるし、グローバル化が進む中で様々な生徒がいると考えられるため、この経験は将来につながるものになった。

大学外ではヴェネツィアの人々の交流の仕方、歴史的建造物の見学で日本とは違う特徴があることに気づいた。授業や見学がない日は街に出て、お店で買い物などをしたのだが、入ると店員さんが「チャオ」とあいさつすることが基本的であった。また、日本に比べて堅苦しくなく、少し不愛想だと感じることはあったが、接客というのは国ごとで違いがあることは理解していたし、効率的な面で見ると日本の接客のほうが特殊なのかなとも思った。全体的にラフな格好で仕事をしており、座って作業したり、雑談したりと日本の「仕事」と印象が全く違った。また、昼間からバーやお酒を提供するお店が多く、観光客や地元の人々がテラス席のようなところで食事を楽しんでいるところは、高知と似通ったものを感じた。日本の接客とは礼儀や丁寧さの点で異なる印象はあったが、フレンドリーに話しかけてくれたり、人種にかかわらず、笑顔で挨拶してくれるところ日本の「おもてなし」に近いものがあることを学んだ。日曜日には現地の学生とともに歴史的建造物の見学に訪れた。日本の歴史的建造物が集まる観光地と比較すると、外国人の多さ、景観の一致をさせるという点では同じ様子であった。しかし、販売しているもの、セキュリティという点で大きく違うことに気づいた。まず、日本と違い、お土産屋さんが移動販売車のような形で売られていることが多く、現地の学生に聞くとぼったくりのような値段で売られているから気を付けてと注意を受けた。日本のお土産屋さんでは偽物が販売されているとか値段が異常に高いということはまれなので、そのようなことを注意しなければならないということは新鮮であった。セキュリティの面では、日本より厳しいと感じた。サンマルコ寺院に行ったとき、中に入るのに荷物検査やゲートを通るなどといった検査が念入りに行われたし、美術館では至る所に作品を監視する人がおり、セキュリティが厳重であった。これらの様子を見てこれからの日本もグローバル化や外国人観光客の増加に伴い、観光地のセキュリティの面を強化していくべきだと感じた。

### ③その他

初めての海外で慣れないところもありましたが、引率してくれた木下先生をはじめ、カ・フォスカリ大学の先生方、現地の学生たち、一緒に過ごした先輩、後輩のおかげでとても良い、楽しい経験になりました。この経験を将来の仕事や生活に活かせるように頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

### ④研修先の写真





## 2024 年度ヴェネツィア カ・フォスカリ大学短期研修報告書

健康栄養学部 1 回生

### (1) 活動概要

9 月 17 日

ヴェネツィアに到着後、ヴェネツィア カ・フォスカリ大学に表敬訪問。大学についての説明や翌日からの大学での研修についての説明を聞く。

9 月 18・19 日

カ・フォスカリ大学の日本語の授業に参加させていただき、その中で学生の方とコミュニケーションをとったり、日本語のネイティブとして授業のお手伝いを行う。また、学生の学年やレベル、専攻に合わせて日本の文化についてなどのプレゼンを行い、日本について詳しく知ってもらう。さらに、学生の方に実際に日本の文化を体験してもらいより興味をもってもらう。

9 月 20 日

ヴェネツィアを散策。サン・マルコ広場を観光し、その道中で名産品や特産物を購入。夕食は地元のスーパーで食材を購入し、ホテルのキッチンを使って調理。

9 月 21 日

カ・フォスカリ大学のキャンパスツアーに参加し、大学の歴史や建物の構造についてなどの説明を聞く。

ムラーノ島・ガラス美術館を見学。また、ブラーノ島を観光、特産品を購入。

9 月 22 日

カ・フォスカリ大学の学生の方に案内してもらいながらヴェネツィア観光。

サン・マルコ広場、サン・マルコ寺院、ドゥカール宮殿、リアルト橋を観光。

### (2) 研修での学び・気づき

カ・フォスカリ大学にはたくさんの日本人留学生の方がたくさんいました。授業中での会話や授業前後に話を聞くと、イタリアだけでなく様々な国に留学している方が多く、同じ大学生なのに言語の差はもちろん、考え方や知識の差をとて感じました。また、言語が通じない中でも積極的に会話をしていたり、授業の中だけでなく留学生活すべてを使って知識や経験を得ようとしていて、留学に目的をもっていて、それに向かって学んでいる姿に刺激を受けました。私は一人でこの研修に申し込んだため、周りの方たちから勇気があってすごいといわれてヴェネツィアに行きましたが、こういった留学生と話すことで、自分の無知さと実行力の無さに気づきました。また、授業内での自由会話の時間に日本人留学生はたくさんコミュニケーションをとっている中、私はほとんど会話に参加できなくて、自分の弱さを感じると同時に悔しさを感じました。

### (3) その他

研修先のカ・フォスカリ大学では数人の先生に協力していただきました。初日の表敬訪問では歓迎していただき、学校の説明だけでなく、お店で少しお話しさせていただきました。また、授業計画や予定があるにも関わらず、すべての先生が私たちのプレゼン時間を作ってくださって、私たちがプレゼンしやすい環境を用意してくださいました。プレゼン中も困ったときは助けてくださり、たくさん協力していただきました。

休日のカ・フォスカリ大学の学生の方との交流では、学生の方たちにヴェネツィアを案内していただきました。その際に、予定や計画を立てていただき、さらに事前に観光先を事前に調べてくれており、歴史や観光先の情報まで説明までしていただきました。

研修中は引率していただいた先生だけでなく、研修先の先生や学生の方の協力にとっても感謝を感じました。

たくさんの方の協力と支えのおかげでとても有意義な研修になりました。











ありがとうございました！